



「集まれ！モミジ（カエデ）の仲間たち」調査のご案内

コオロギなどの虫の音がひそやかになり、アキアカネが色鮮やかになって空を舞う季節になりました。そろそろ、紅葉（こうよう）の便りが待たれます。今回のフィールドレポーター調査は、紅葉の代表格であるモミジをはじめ、それが属する“カエデの仲間”全般を取り上げることにしました。皆さんはモミジをよく御存じだと思いますが、この機会にモミジやカエデについてより詳しく知り、今年の紅葉を楽しんでみませんか。

イロハモミジがイロハカエデとも呼ばれるように、モミジはカエデ類（ムクロジ科カエデ属）に分類されます。カエデ類は日本に30種前後ありますが（研究者によって種数の見解が異なる）、
1. 葉が対生（たいせい：1箇所から左右に対になって出る）についている 2. 竹トンボのような翼果（よくか：翼のついた果実）がある、という2つの特徴が見られれば、カエデ類であることがすぐにわかります。（添付資料を参照）

カエデ類の多くは秋に美しく紅葉するので、古くから人があちこちに植えるだけでなく、たくさんの園芸品種がつけられ観賞されてきました。この調査では、どの種がどこに生えているか（カエデの分布）を調べるとともに、どんな種がどんな所に植えられているか（植栽の場所と種の関係）を知りたいと考えています。

そこで皆さんには、二つの方法でカエデを探していただきたいと思います。一つは、山歩きする際の山道や、山間地の車道脇で探す方法です。11月下旬頃に紅葉・黄葉した木に注目すると、楽かもしれません。もう一つは、モミジの名所や公園、住宅の庭、街路など、平地で探す方法です。予想以上に多く見つかるでしょうし、湿地では思わぬ種類を見つけるかもしれません。

ただ、対生と翼果でカエデ類とわかって、カエデの葉は化ける（葉の変異が大きい）ので、種を見分けるのに考え込むことが多々あります。そのため、この調査では、葉っぱとタネ（翼果）をサンプルとして送っていただくか、採取できない場合は写真に撮って送っていただきたいと思います。サンプルの採取と送り方については、別紙をご覧ください。今回は、博物館の植物標本整理室の石田さんのご協力を得て、送っていただいたサンプル又は写真から同定を行い、それがどの種であったかを後日お知らせいたします。

調査期間は2018年12月末までとします。この調査票が届いてすぐに出かけると、気候も良く、木に翼果がついているのが見られるでしょう。また、11月に入るとそろそろ紅葉が始まり、美しい姿に感動が得られるでしょう。皆さんそれぞれに、出かけてみてください。

調査の説明会とミニ観察会 *申し込み不要

日時…10月20日（土） 14時～17時

場所…博物館実習室1（エントランスから左の通路を進み、ホールの手前）

内容…カエデについて・サンプルの採取と送付方法・屋外でカエデ4種を
観察・情報交換

「モミジは分かるけどカエデはねえ…」と感じていらっしゃる方、種の見分け方を
知りたいと思っていらっしゃる方など、皆さんのご参加をお待ちしています。